二〇一二年三月一日（佐藤家ひな祭 参加者一四人）

我句帳多くの雛に見られをり　満天
口もとの話し出しそな女雛かな　〃
園児らのお行儀座り雛の前　〃
遠き日を探すごとくに雛愛づる　〃
漢方の薬の箱に雛飾る　〃
振り上げし手に枹のなし古雛　菜々
踏青や町へ八達古墳道　〃
瓔珞に冠傾ぐ古代雛　〃
享保雛丹の高欄をめぐらせて　〃
口に笏当てて男雛は何洩らす　うつぎ
縁側の乞食雛に射す日かな　〃
玄関に飾る雛の下駄草履　〃
金継の皿も調度や雛館　わかば
土雛の頬ふくやかに巌の上　〃
モビールの玉の中なる豆雛　〃
緋座布団づれしをなほす座り雛　よし子
艶めける女人ばかりの雛の宿　〃
庭石に笑いころげて土雛　〃
恍惚として門出づる雛の家　せいじ
二上山望む陵春浅し　〃
迎えしは手練の墨書ひなの家　〃
金襴の糸の怪しき古代雛　つくし
雛たちに見らるる吾の膝がしら　〃
感嘆の溜息洩るる雛の宿　かれん
酒蔵の低き煙突春うらら　〃
手焙りに菊炭火照る旧家かな　ひかり
槍を持つ仕丁ほろ酔御殿雛　ぽんこ
外庭に宝さがしのごと雛　明日香
訪へば鴨居の上に紙雛　有香
目移りす千の雛にかこまれて　はく子
抹茶飲み干せば雛の絵の現るる　〃
踏みどころなきほどあふれ雛の家　〃
うつし世の憂さを忘れて雛愛づる　〃

吟行句会みのる選

二〇一二年三月一日（佐藤家ひな祭 参加者一四人）